

学会だより

◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成21年9月12日14:00より

開催場所：東京大学農学部

出席者：長戸康郎，矢野昌裕，奥野員敏，江面浩，伊藤純一，寺地徹，佐藤豊，築山拓司，加藤鎌司，乙部千雅子，小松田隆夫，田口文緒，久保山勉，中園幹生

各常任幹事からの経過報告後，奨励賞候補者の推薦基準の変更，編集委員からの論文賞推薦件数に関する内規の改定，秋季大会での新型インフルエンザ対策，Breeding Science 投稿の不正行為に対する対応，Breeding Science 編集委員の交代，Breeding Science および育種学研究本冊の白紙ページの解消と別刷の体裁，和文誌の活性化，平成22年度以降の和文誌編集事務局，学会誌の印刷費値下げ，座長への優秀発表賞投票用紙の配布方法に関して討議を行った。

◇ 幹事会議事録

開催日時：平成21年9月24日 15:00より

開催場所：北海道大学百年記念会館大会議室

出席者：長戸康郎，倉田のり，矢野昌裕，久保友彦，佐野芳雄，三浦秀穂，高畑義人，鳥山欽哉，菅野明，半田裕一，江面浩，奥野員敏，岩田洋佳，新倉聡，金子幸雄，吉田薫，荻原保成，穴戸理恵子，佐藤豊，掛田克行，村井耕二，築山拓司，寺石政義，清水顕史，長谷川博，加藤鎌司，佐藤和広，富田因則，安井秀，穴井豊昭，伊藤純一，寺地徹，小松田隆夫，田口文緒，乙部千雅子，久保山勉，佐々英徳，中園幹生（38名）

委任状：原田竹雄，五十鈴川寛司，木庭卓人，石坂宏，大村三男，松岡信，和田卓也，田浦悟（8名）計46名

1. 各常任幹事経過報告

1) 総務（中園）

平成21年9月8日時点の会員数は2,078名であり，平成21年3月から9月の間に会員数が2,000～2,100名程度で推移したことが報告された。

2) 科研費・農学会（伊藤）

平成21年度科研費「研究成果公開促進費（学術定期刊行物）」が採択され，410万円の交付を受けたこと，平成21年度科研費「研究成果公開促進費（研究成果公开发表（B）」の申請書（課題名：私たちの生活と品種改良——北海道農業の底力——）が不採択であったことが報告された。農学会に関しては，平成21年10月9日に日本農学会80周年記念式典，10月10日に平成21年度日本農学会80周年記念シンポジウム「世界の食料・日本の食料」が開催され，日本育種学会より推薦した作物研究所所長

の岩永勝氏が「食糧危機を克服する作物育種」という演題で講演予定であることが報告された。さらに，平成21年10月19日に日本学術振興会による平成21年度科研費研究成果公開促進費（学術定期刊行物）に関する実地検査が行われることが報告された。

3) 渉外・学会間連携（奥野）

平成21年3月27-28日につくばで開催された日本育種学会春季大会と日本作物学会春季大会の合同開催に対するアンケートの集計結果が報告された。

4) ホームページ（寺地）

日本育種学会ホームページのアクセスおよび新着情報の更新件数が報告された。

5) 地域活動（各地域幹事）

北海道地区では，平成21年8月31日に北海道大学農学部において日本育種学会・日本作物学会北海道談話会合同例会が開催されたこと，平成21年9月27日に開催予定の市民公開シンポジウム「私たちの生活と品種改良——北海道農業の底力——」に日本育種学会・日本作物学会北海道談話会も共催すること（久保），東北地区では8月21日に岩手大学において第4回東北育種研究集会（70名参加）が開催され，講演が2題，ポスター発表が17題であったこと（鳥山），中部地区では12月5日に静岡大学において第17回育種学会中部地区談話会が開催されること（佐藤），平成21年7月24-25日に石川県立大学において北陸作物・育種学会第46回講演会・シンポジウムが開催されたこと（村井），近畿地区では平成21年7月11日に京都大学農学部において近畿作物・育種研究会第167回例会（約60名参加）が開催され，特別講演が1題，一般講演が10題であったこと，会誌「作物研究（Journal of Crop Research）」を平成22年発行の55号からオンライン公開すること，平成21年10月17日に奈良において第2回現地検討会を開催すること（築山），中国・四国地区では平成21年7月16-17日に広島大学において平成21年度中国地域育種談話会・日本作物学会中国支部合同大会（70名参加）が開催されたこと，平成21年12月に愛媛大学において育種学会四国談話会講演会・シンポジウムが開催されること（加藤），九州地区では平成21年12月11日に九州沖縄農業研究センターにおいて九州育種研究会が開催されること（安井）が報告された。

6) GMO 関連（江面）

日本育種学会を含む関連学協会による支援を受け，筑波大学遺伝子実験センターは文部科学省の共同利用・共同研究拠点事業に申請し，「形質転換デザイン研究拠点」（設置期間：平成22年4月1日～平成28年3月31日）として認定されたこと，平成22年10月に名古屋で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議」（COP10）に先駆け，平成22年2月16-18日に筑波大学においてバイ

オセーフティ教育のためのシンポジウムを開催することが報告された。

7) 会計 (乙部)

平成 21 年度の会計の中間報告があり、内容の説明があった。

8) 編集英文誌 (田口)

Breeding Science 59 巻 (2009 年) の投稿・審査状況に関する報告があった。平成 20 年 4 月に J-STAGE へ移行後、非会員も投稿できるようになったために投稿数は増加したが、結果的に不採択論文が増え採択率が減少したことが報告された。

9) 編集和文誌 (安井)

育種学研究 11 巻 (2009 年) の投稿・審査状況に関する報告があった。11 巻 4 号では平成 21 年春の日本育種学会・日本作物学会合同シンポジウムの講演内容の特集記事が予定されており、11 巻の総ページ数が増えることが報告された。

10) 集会関係 (久保山)

前大会 (つくば国際会議場) 開催報告があり、さらに本大会 (北海道大学)・次大会 (京都大学) 開催予定の報告があった。本大会の一般講演数は 374 題であることが報告された。

2. 議事

1) 平成 21 年度日本育種学会賞選考について

学会賞等選考委員会 (倉田のり委員長, 矢野昌裕, 奥野員敏, 鳥山欽哉, 佐野芳雄, 江面浩, 安井秀) および幹事会の議を経て次の 3 件を選定した。

◎荻原保成 (横浜市立大学木原生物学研究所): コムギの核および細胞質ゲノムにおける機能ゲノム科学の展開

◎松岡信 (名古屋大学生物機能開発利用研究センター): 植物ホルモンの分子生物学的作用機構解明と分子育種による作物の改良

◎「コシヒカリ新潟 BL シリーズ」開発グループ (代表者: 石崎和彦): 新潟県における「コシヒカリ新潟 BL シリーズ」の開発と普及

2) 平成 21 年度日本育種学会奨励賞選考について

学会賞等選考委員会および幹事会の議を経て次の 3 件を選定した。

◎竹内善信 (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所): イネにおける品質・食味関連形質の遺伝解析とその育種の利用

◎佐藤豊 (名古屋大学大学院生命農学研究科): イネのシュート構築機構の解明

◎塚崎光 (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所): SSR マーカーを利用したネギの育種における応用研究

3) 平成 22 年度日本農学賞候補者選考について

学会賞等選考委員会および幹事会の議を経て、佐々木卓治氏 (独立行政法人農業生物資源研究所; 受賞候補題

目: イネゲノム全塩基配列・遺伝情報解読研究) を平成 22 年度日本農学賞候補者として推薦することが決定された。

4) 平成 22 年度秋季大会 (第 118 回講演会・第 53 回シンポジウム) 開催地について

平成 22 年度秋季大会の開催を秋田県立大学 (大会委員長: 赤木宏守教授) に依頼することが提案され、承認された。

5) 編集委員からの論文賞推薦件数に関する内規の改定について

現行の内規では、編集委員は 2 編以内の論文賞授賞候補論文を推薦することになっているが、授賞候補論文の推薦件数を 3 編以内まで増やすことが提案され、承認された。それに伴い、下記のような内規「G. 日本育種学会論文賞の選考に関する事項」の改定案が提案され、承認された。

◎ 現行内規「(前略) 3) 編集委員は Breeding Science および育種学研究の中から論文賞候補として 2 編以内を編集幹事に推薦する。(後略)」

◎ 改定内規「(前略) 3) 編集委員は Breeding Science および育種学研究の中から論文賞候補として 3 編以内を編集幹事に推薦する。(後略)」

6) Breeding Science 編集委員の交代について

Breeding Science 編集委員を喜多村啓介氏と野田和彦氏から穴井豊昭氏と Nils Stein 氏に交代することが提案され、承認された。

7) Breeding Science と育種学研究本冊の白紙ページの解消と別刷の体裁について

平成 21 年春の幹事会において提案された Breeding Science と育種学研究本冊の白紙ページの解消について、別刷の体裁を検討する必要があったために、継続審議事項となっていた。出版社と協議して別刷の体裁問題の解決方法が決定されたので、改めて Breeding Science と育種学研究本冊の白紙ページの解消および別刷の体裁の変更が提案され、承認された。

8) 別刷費用の著者負担について

これまで BS の別刷費用のおよそ半分に相当する額が著者負担で、残りを学会が負担していたが、仮に別刷費用の全額を著者負担にしても他の学会の学会誌と比べて Breeding Science の場合は著者の負担は軽いことから、学会誌の印刷費削減のために別刷費用全額の著者負担が提案され、承認された。育種学研究の別刷費用の著者負担については、今後の検討課題となった。

3. 関連報告

1) シンポジウム委員会 (佐藤)

平成 21 年度秋季大会において 3 課題のシンポジウムを開催予定であること、育種学研究第 11 巻 3 号に平成 22 年度秋季大会でのシンポジウムの公募を掲載したことが報告された。

2) 男女共同参画についての活動状況 (吉田)

3月に開催された女子高校生春の学校「ジュニア科学塾」に後援と協力をしたこと、平成21年度春季大会で男女共同参画ランチョンセミナーを日本作物学会と合同開催したこと、春季大会会期中に保育室を開設し4家族5名が利用したこと、保育室利用者への講演時間帯の配慮をしたことなどの平成21年度の活動実績の報告があった。今後の活動計画として、平成21年度秋季大会会期中に会場近くの一時保育施設を斡旋し保育料の一部を負担すること、10月7日に開催される男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加し育種学会における男女共同参画に関する活動状況についてポスター展示することが紹介された。男女共同参画学協会連絡会の活動として、「第4期科学技術基本計画及び男女共同参画基本計画(第3次)への提言」のとりまとめが報告された。

3) 記者レク報告 (矢野, 伊藤)

平成21年9月9日に報道各社にプレスリリースを行い、平成21年9月17日にマスコミ9社に対して4件の学会発表課題の記者レクを行ったこと、平成21年度秋季大会開催中に札幌のテレビ局の取材があることが報告された。

4) その他

佐藤幹事より、日本育種学会を含む関連学協会による支援を受け、岡山大学資源生物科学研究所は文部科学省の共同利用・共同研究拠点事業に申請し、「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」として認定されたことが報告された。岩田幹事より、平成21年12月2-3日につくばにおいて農研機構国際シンポジウム「育種の新パラダイム 高効率育種のためのゲノム情報・遺伝資源の戦略的活用」が開催されることが紹介された。

4. その他

1) Borlaug 名誉会員の逝去について

会長より日本育種学会名誉会員のNorman Borlaug博士が逝去されたことが報告され、日本育種学会から遺族に弔文を送ること、追悼文を学会誌に掲載することが紹介された。

2) 日本育種学会優秀発表賞の投票方法について

幹事に日本育種学会優秀発表賞の投票用紙を配布後、投票方法の説明があった。各幹事は10件以内の演題(講演番号と筆頭発表者)を投票用紙に記入し、講演会最終日(9月26日)の15:30~17:30に大会本部内に設置する投票箱に投票することになった。

◇ 第116回講演会日本育種学会優秀発表賞

平成21年度秋季大会(第116回講演会)における日本育種学会優秀発表賞が下記の13課題に決定された。

講演番号 601: イネ *DROOPING LEAF (DL)* 遺伝子の機能と葉の中肋形成。○大森良弘・平野博之(東大・院理)

講演番号 209: 浮イネ関連遺伝子 *Snorkell* および *Snorkel2*

の機能解析。○服部洋子¹・永井啓祐¹・古川静佳¹・宋献軍¹・榊原均²・松岡信¹・森仁志³・芦苺基行¹(1. 名大生物機能, 2. 理研 植物科学センター, 3. 名大院生命農学)
講演番号 719: タペート細胞におけるミトコンドリアダイナミクスの解析。○中島将貴・藤本優・松岡佳奈子・有村慎一・堤伸浩(東大農学生命科学)

講演番号 107: イネのABCトランスポーターRCN1は耐湿性獲得に重要な根への効率的酸素運搬に関与する。○中村元昭¹・塩野克宏¹・安藤美保¹・松尾優一¹・土反伸和²・藤本優¹・高橋宏和¹・高牟礼逸朗³・矢崎一史²・堤伸浩¹・中国幹生¹・加藤清明⁴(1. 東大農学生命科学, 2. 京大生存圏研究所, 3. 北大農院, 4. 帯広畜産大)

講演番号 312: ビールの泡持ちに関連する大麦育種DNAマーカーの開発。○飯牟礼隆¹・木原誠¹・伊藤一敏²・林勝弘¹・佐藤和広³・武田和義³(1. サッポロビールバイオ研究開発部, 2. サッポロビール価値創造フロンティア研究所, 3. 岡山大学資源生物科学研究所)

講演番号 602: 葉序を規定するイネDEC遺伝子の単離。○伊藤純一¹・榊原均²・長戸康郎¹(1. 東大農学生命科学, 2. 理研 植物科学センター)

講演番号 202: イネ転移因子の爆発的増殖をもたらす遺伝子制御網への影響。○内藤健^{1,2}・F. Zhang¹・築山拓司²・斉藤大樹²・奥本裕²・S. Wessler¹・谷坂隆俊¹(1. 京大院農学, 2. ジョージア大植物科学)

講演番号 603: イネの初期生育に異常を示す *asy* 変異体の解析。○細木渉・伊藤純一・長戸康郎(東大農学生命科学)

講演番号 607: イネの胚珠分化に異常を示す *osmads13* 変異体の解析。○山木辰一郎¹・倉田のり^{1,2}・野々村賢一^{1,2}(1. 遺伝研, 2. 総研大生命科学)

講演番号 525: 六条オオムギの進化過程。○最相大輔¹・P. Mohammad²・小松田隆夫²(1. 岡大資生研, 2. 生物研)

講演番号 610: オオムギ属における穎花の開閉性に関する種間変異。○石原倫光¹・王寧²・小松田隆夫²・掛田克行¹(1. 三重大院生物資源学, 2. 生物研)

講演番号 708: リンゴ *S* 遺伝子座に連鎖する F-box 遺伝子群の解析。○南川舞¹・角井宏行¹・古藤田信博²・佐々英徳¹(1. 千葉大院園芸, 2. 農研機構果樹研)

講演番号 P1-50: イネのカドミウム移行を高める遺伝子 *qCDT7* の単離。○宮舘秀典¹・手塚耕一¹・安達早希¹・平泉彩¹・佐藤奈美子¹・渡辺明夫¹・櫻井健二¹・高橋秀和¹・川本朋彦²・加藤和直²・小玉郁子²・眞崎聡²・赤木宏守¹(1. 秋田県立大生物資源, 2. 秋田県農林水産技術センター)

◇ 日本育種学会第116回講演会選定課題記者会見報告

会見日時: 平成21年9月17日(木曜) 11:00~12:15

会見場所: 東大弥生講堂アネックスエンゼル講義室(東京都文京区本郷7-3-1(東京大学構内農学部正門横))

出席者: 幹事長 矢野昌裕, 庶務幹事 伊藤純一

参加報道機関：NHK，朝日新聞，読売新聞，日刊工業新聞，日本経済新聞，日本農業新聞，化学工業日報，科学新聞，日経PB社の9社（10名）

平成21年9月25日（金曜），26日（土曜）に北海道大学（北海道札幌市）で開催された日本育種学会第116回講演会の講演課題（計374課題）の中から常任幹事によって選定された以下の5課題について，記者会見を実施した。

【記者会見課題】

- (1) 講演番号：P1-50「イネのカドミウム移行を高める遺伝子 $qCdT7$ の単離」宮舘秀典・手塚耕一・安達早希・平泉彩・佐藤奈美子・渡辺明夫・櫻井健二・高橋秀和・川本朋彦・加藤和直・小玉郁子・眞崎聡・赤木宏守（秋田県立大生物資源，秋田県農林水産技術センター）
- (2) 講演番号：P1-51「カドミウム高吸収イネ「長香穀」のカドミウム蓄積性に関するQTL」手塚耕一・宮舘秀典・佐藤奈美子・渡辺明夫・櫻井健二・高橋秀和・川本朋彦・加藤和直・小玉郁子・眞崎聡・佐藤秀樹・山口誠之・赤木宏守（秋田県立大生物資源，秋田県農林水産技術センター，東北農研）
- (3) 講演番号：312「ビールの泡持ちに関連する大麦育種DNAマーカーの開発」飯牟礼隆・木原誠・伊藤一敏・林勝弘・佐藤和広・武田和義（サッポロビール（株）バイオ研，価値創造フロンティア研，現：九州沖繩農研，岡大資生研，CREST）
- (4) 講演番号：225「スギにおける核遺伝子型雄性不稔遺伝子のマッピング」森口喜成・二村典宏・伊原徳子・松本麻子・斎藤真己・平英彰・篠原健司・津村義彦（森林総研，富山森林研，元新潟大）
- (5) 講演番号：330「低温抵抗性でイソフラボン含量が高いダイズ品種「ゆきびりか」の育成」萩原誠司・白井滋久・湯本節三・松川勲・山崎敬之・鈴木千賀・大西志全・田中義則・黒崎英樹・角田征仁（道立十勝農試，道立北見農試，東北農研，植調北海道，道立中央農試，横浜市青葉区）

それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成していただき，それに基づいて矢野と伊藤が説明し，質疑応答を行った。記者会見後，講演番号312の記事が日本経済新聞（9/21），日本農業新聞（9/23），化学工業日報（9/29）および朝日新聞（11/10）に掲載された。

集会の案内

◇ 第20回SHITAシンポジウム「技術立国日本の植物工場テクノインテグレーション」

開催日時：2010年1月22日（金）9時55分～16時45分（講演会），17時～19時（懇親会）

会場：中央大学駿河台記念館（東京都千代田区神田駿河台3-11-5）

主催：日本生物環境工学会 植物工場部会（SHITA）

プログラム：

- 9:55～10:00 植物工場部会長挨拶 高山真策（東海大学 開発工学部 教授）
 - 10:00～10:20 「植物工場の研究から国家プロジェクト成立まで」高辻正基（（財）社会開発研究センター 植物工場・農商工専門委員会委員長）
 - 10:20～10:40 「植物工場学会の創設，国際化，新学会への合併」橋本康（日本学術会議連携会員，日本生物環境工学会名誉会長）
 - 10:40～12:00 「経済産業省平成21年度先進的植物工場施設整備費補助金採択事業内容」青森県産業技術センター，千葉大学，東京農工大学，明治大学，信州大学，大阪府立大学，島根大学，愛媛大学
 - 13:10～13:50 「STOP THE 温暖化！～“緑豊かな地球への回帰”に挑む植物工場」山下和貴（株式会社 ヴァロール 代表取締役社長）
 - 13:50～14:30 「植物工場におけるLED普及戦略」鈴木廣志（昭和電工株式会社 エレクトロニクス事業本部 電子材料事業部 営業部長）
 - 14:30～15:10 「国内における大規模パブリカ生産施設について」（仮題）富田啓明（リッチフィールド有限公司 代表取締役）
 - 15:25～16:05 「政党インタビュー 農業新技術への期待」気仙英郎（株式会社 産経新聞社 論説委員）
 - 16:05～16:45 「植物工場の現状と国の支援施策について～農商工連携の促進に向けて～」杉本敬次（経済産業省 地域経済産業グループ 地域経済産業政策課 課長補佐）
- 案内書，参加申込用紙が必要な方は下記のE-mailまたはFAXでご請求ください。また，Webページ：<<http://shita.jp/sympo/>>にも案内があります。
- E-mail: sympo@shita.jp FAX: 055-968-1156 植物工場部会事務局 柴田宛

研究助成公募の案内

◇ 財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 平成22年度研究助成対象者募集要領

本財団は，農学，特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成し，もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も，農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し，研究助成金を交付いたします。特に，若手研究者への助成の枠を設け，今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。

平成22年度は，次の要領で助成対象者を募集いたします。

1. 研究課題：(1) 穀類並びに豆類の栽培生産技術（栽培・育種等）に関する研究，(2) 穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究，(3) 穀類並びに豆類の品質・

- 成分並びに栄養生理等に関する研究, (4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究
2. 研究助成対象者: (1) 大学及び短大の研究者 (大学院生も含む), (2) 国立試験研究機関の研究者, (3) 公立試験研究機関の研究者, (4) その他本財団が適当と認めた研究者
 3. 助成金額: 一般研究者 1 件 70 万円を 4 件程度, 若手研究者 1 件 30 万円を 4 件程度 (昭和 45 年 4 月 1 日以降に生まれた者)
 4. 交付時期: 平成 22 年 5 月予定
 5. 申請手続き方法: 当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し, 平成 22 年 3 月 20 日 (必着) までに郵送願います. 尚, 申請書用紙は, タカノフーズ(株)ホームページ <http://www.takanofoods.co.jp/> 内【タカノ財団について】からダウンロードできます. または, E-mail にお問合せいただけましたら, 書類を添付して返信いたします.
 6. 申請書請求先及び送付先: 〒 311-3411 茨城県小美玉市野田 1542 (財) タカノ農芸化学研究助成財団
TEL: 0299-58-4363, FAX: 0299-58-3847
E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp
 7. その他: 同一研究課題で, 他の団体等へ応募され, かつ, 本年度重複助成となられた場合には, 助成をできない場合がありますのでご注意ください.

談話会だより

◇ 東北地区

東北育種研究集会

第 4 回東北育種研究集会が, 2009 年 8 月 21 日 (金) に岩手大学付属図書館において開催されました. 参加者は福島県を除く東北 5 県 8 研究・教育機関からの総勢 70 名, ポスター発表は 17 課題となりました. 日本育種学会の地方会員の交流による学会活性化として始められた研究集会は, 例年どおり, 作物学会の支部会 (8 月 20 日午後~21 日午前) に併せて行いました.

今回は岩手県の日本育種学会に所属する学会員から 2 題の講演をいただきました. 1 題目は岩手大学農学部滝沢農場の教授である星野次汪氏による「ヒエの遺伝資源の評価と Wx 遺伝子変異利用による新規素材開発」, 2 題目は八幡平市花き研究開発センターの所長である日影孝志氏による「リンドウの育種と国際戦略」についてでした. 星野次汪氏のヒエの話題では, 世界初となるモチヒエの新品種育成のための戦略を分子生物学的解析を交えた実験結果で紹介していただきました. また, 育種家としての心構えを「遺言」として参加者の皆さんに示していただきました. 日影孝志氏によるリンドウの話題では, 岩手県発のリンドウの新品種育成の過程を問題点を挙げながら紹介していただきました. また, 岩手県のリンドウをヨーロッパに輸出していくときの課題やこれからの

国際戦略についてもニュージーランドとの共同研究の事例を挙げながら紹介していただきました. 討論では, 新品種育成のための育種の方法論, 国際戦略としての品種保護などの問題が出され, 活発な意見交換がなされました. その後の情報交換会でも学生を交えながら和やかな雰囲気の中, 情報交換がなされました.

今回の集会の事務連絡でも, 前回同様に中西印刷の向井様, 日本育種学会 HP 担当幹事の寺地先生, 庶務幹事の中園先生の協力が得られ, 安価で迅速に問題もなく情報公開が東北地域会員になされました. 連絡網の整備が年々進んでいることが伺われ, 非常に有効な手段であることが再認識されました.

以下はポスター発表の題目です. P1. 伴細胞における遺伝子一過的発現技術を利用した MT2B プロモーターの解析. ○津和本亮・原田竹雄 (弘前大農学生命); P2. ダイズ品種エンレイに由来する複数の種皮着色突然変異体の比較解析. ○西村さつき¹・乗田理恵¹・黒田智久²・千田峰生¹ (1. 弘前大学農学生命科学部, 2. 新潟県農業総合研究所); P3. セルロース系バイオエタノールに向けたセルラーゼ過剰発現イネの作成と解析. ○濁川睦¹・伊藤幸博¹ (1. 東北大院・農); P4. イネの生育に関する PPR タンパク質 MPR25 の解析. ○戸田拓士・藤井壮太・鳥山欽哉 (東北大学大学院農学研究科); P5. 東アジア栽培イネにおける日本在来香米の遺伝的特殊性. ○本多剛志・石川隆二 (弘前大学農学生命科学部); P6. リンゴの着果・果実肥大過程に関する研究. ○加藤藍¹・高岸香里¹・田中紀充²・和田雅人³・壽松木章¹・渡邊学¹・小森貞男¹ (1. 岩手大学農学部, 2. 弘前大学農学生命科学部, 3. 果樹研究所リンゴ研究チーム); P7. 1 世代を 2 年で経過するリンゴ育苗体系構築の試み. ○高岸香里¹・山本翔太¹・副島淳一²・李積軍¹・張春芬¹・渡邊学¹・壽松木章¹・耳田直純¹・小森貞男¹ (1. 岩手大学農学部, 2. 果樹研究所リンゴ研究チーム); P8. 小孢子培養を利用した胚発生特異的遺伝子の機能解析. ○後藤歩・晴山聖一・高畑義人・横井修司 (岩手大農); P9. ソラマメの外観形質と食味に関する育種学的解析. ○藤原靖史¹・三上孝治²・横井修司¹・高畑義人¹ (1. 岩手大農, 2. みかど協和株式会社); P10. 2 種類の細胞質雄性不稔イネの稔性回復システムの比較. ○風間智彦・藤井壮太・鳥山欽哉 (東北大学・院・農); P11. ダダチャマメに特異的に多いタンパク質・酵素のプロテオーム解析. ○阿部利徳・小西省吾・藤野真美・笹沼恒男 (山形大農); P12. リンドウ野生種に見られる W14/15 遺伝子座の塩基配列多型. ○堤賢一^{1,2}・小葉清美²・日影孝志¹・土井寿子¹・斎藤靖史^{1,2}・高畑義人¹ (1. 岩手大院・農・連合農学研究科, 2. 寒冷バイオフィロンティア研究センター); P13. イオンビームによる「あきたこまち」の穂相の変異体の作出. ○大淵正幸¹・加賀谷紘子¹・田中淳²・佐藤 (永澤) 奈美子¹・櫻井健二¹・渡辺明夫¹・赤木宏守¹・高橋秀和¹ (1. 秋田県大生物資源, 2. 原子力機構量子ビーム

応用研究部門)； P14. イオンビームによるイネ重力屈性変異体の染色体構造の解析. ○高橋明¹・手塚耕一¹・母良田美咲¹・加賀谷紘子¹・田中淳²・佐藤(永澤)奈美子¹・櫻井健二¹・渡辺明夫¹・赤木宏守¹・高橋秀和¹(1. 秋田県大生物資源, 2. 原子力機構量子ビーム応用研究部門)； P15. オーストラリア野生イネにおける遺伝的多様性の評価. ○ハオイン・石川隆二(弘大農生)； P16. プナにおける *R2R3-MYB* ファミリーの系統解析と低温・乾燥誘導性の解析. 上祐瞳¹・松田修一²・○赤田辰治³(1. 弘大大学院農学生命, 2. 岩手連大, 3. 弘大遺伝子)； P17. 様々なヒエの系統・品種におけるアミロペクテン鎖長分布の測定. ○吉田晴香¹・梅本貴之²・平塚真遊³・佐川了¹・星野次汪¹(1. 岩手大農寒冷フィールド教育研セ, 2. 作物研究所, 3. 筑波大院生命環境)

高畑義人・横井修司(岩手大学農学部)

◇ 中部(北陸)地区

北陸育種談話会

北陸育種談話会は、今年度から日本作物学会北陸支部と合同で、北陸作物・育種学会として活動を行っています。平成21年度総会、第12回北陸作物・育種学会賞授賞式・記念講演、第46回講演会・シンポジウムを平成21年7月24日(金)～25日(土)に石川県立大学で開催しました。詳細は以下の通りです。

1. 北陸作物・育種学会賞：「米の高位安定生産技術による北陸稲作への貢献」池田武(新潟大学名誉教授)；
2. 一般講演49題；
3. シンポジウム「農業ここにあり！——地域の活性化と自立への道——」
 - 1) 加賀野菜「五郎島金時」の栽培技術とブランド化への取り組み 西沢寛一(JA金沢市 理事)；
 - 2) 有機農業の実践と有機農産物の商品化戦略 井村辰二郎(株式会社 金沢大地代表)；
 - 3) イネ、チューリップ、ダイズ、野菜苗の生産と販売による複合経営 仙道秀松(富山県花き生産協議会 副会長)；
 - 4) 在来ソバ品種の栽培面積拡大と市場への対応 小寺惣吉(JA花咲ふくい農業協同組合 営農部長)

村井耕二(福井県立大学生物資源学部)

◇ 中国・四国地区

中国地域育種談話会

中国地域育種談話会の第1回講演会を、中国地域育種談話会・日本作物学会中国支部合同大会として、2009年7月16, 17日に広島大学学士会館レセプションホールにおいて開催した。それぞれの参加人数は22名、42名であり、プログラムは下記の通りである。

一般講演：①低フィチンダイズと普通栽培品種の生産と環境適応性の比較. 福田泰子¹・政岡賢一¹・夏目悠司¹・実岡寛文¹・Victor Raboy²(1. 広島大院生物圏科学, 2. USDA-ARS) ②緑肥植物セスバニア・ロストアラータの水田転換畑における土壌環境改善効果. 保科亨・谷本俊

明・竹中賢司・浦野光一郎(広島県農技セ) ③ソルガム不耕起栽培における1番草刈り時期が乾物収量ならびに糖収量に及ぼす影響. 勝場善之助・上藤満宏(広島県農技セ) ④サツマイモ屋上緑化における熱低減効果の最大化の条件. 足立文彦・前野祐輝(鳥根大生物資源) ⑤鳥取県東部地域における現地試験を通じて得た乾田直播栽培の要点と課題. 藤本寛(近中四農研) ⑥鉄コーティング種子を用いたイネ直播栽培——品種および栽培法の比較. 地川侑希¹・猪谷富雄¹・山内稔²(1. 県立広島大生命環境, 2. 近中四農研) ⑦鉄コーティング直播栽培における播種後の種子埋没が萌芽に及ぼす影響. 貝淵由紀子・山本真之(広島県農技セ) ⑧土壌への有機物混和および水管理が水稻鉄コーティング種子の発芽・苗立ちに及ぼす影響. 山本真之・貝淵由紀子(広島県農技セ) ⑨水稻種子の低酸素状態での浸種日数が発芽に及ぼす影響. 橋本俊司(鳥取県農総研) ⑩深層追肥栽培がタカナリの生育収量におよぼす影響. 矢部亮・齊藤邦行・黒田俊郎(岡山大院自然科学) ⑪施肥量と栽培時期が紫黒米の玄米色とアントシアニン含量に及ぼす影響. 猪谷富雄・古田将之・吉岡敬恭(県立広島大生命環境) ⑫機械除草の効果を補う除草器具がコナギの発生及び水稻の生育に及ぼす影響. 安達康弘(鳥根県農技セ) ⑬塩ストレスの時期およびケイ素施肥がイネの白穂発生に及ぼす影響. 津田誠・上田裕紀枝・平井儀彦(岡山大院自然科学) ⑭水稻品種「朝日」と「せとこがね」間の雑種後代における脱粒性の遺伝. 大久保和男(岡山県農試) ⑮簡易製粉で良質の米粉が得られる水稻粉質米中間母本の育成. 羽嶋正恭・川元洋子・平田達哉・金子和彦・山榮午朗・井上浩一郎・穂吉和枝(山口県農技セ) ⑯国内外から収集した在来稲系統の生態的・形態的特性および玄米品質の変異. 太田惣一郎・李天・猪谷富雄(県立広島大生命環境) ⑰速効性窒素と緩効性窒素の割合が異なる被覆尿素肥料がコムギ品種ニシノカオリの収量および子実タンパク含有率に及ぼす影響についての登熟期間の物質生産ならびに窒素代謝による解析. 河田泰宏¹・高橋肇¹・千手一真¹・Md. Alamgir Hossain²・穂吉和枝³・中司祐典³(1. 山口大農, 2. 鳥取大院連合農学, 3. 山口県農技セ) ⑱被覆尿素単肥の全量基肥施用が小麦・裸麦の生育, 収量に及ぼす影響. 中司祐典・前岡庸介・木村晃司・穂吉和枝(山口県農技セ) ⑲北海道および九州で育成されたコムギ品種の収量性に及ぼす山口の秋播栽培および北海道の初冬播・春播栽培の効果. 千手一真¹・高橋肇¹・河田泰宏¹・荒木英樹¹・神野裕信²・Md. Alamgir Hossain³(1. 山口大農, 2. 北海道立中央農試, 3. 鳥取大院連合農学) ⑳大豆-小麦連続不耕起栽培を可能とする大豆立毛中小麦散播栽培技術. 浦野光一郎・保科亨(広島県農技セ) ㉑気温上昇がコムギの生育収量, 品質におよぼす影響. 安崎佑規・齊藤邦行・黒田俊郎(岡山大院自然科学) ㉒中国雲南省より導入したコムギ遺伝資源の多様性及び系統分化の解析. 加藤鎌司¹・西田英隆¹・明石由香利¹・吉

野熙道²・辻本壽³・田中裕之³・露崎浩⁴ (1. 岡山大学院自然科学, 2. 昆明植物研究所, 3. 鳥取大農, 4. 秋田県立大生物資源) ㉓ Genetic diversity in melon landraces from Vietnam, revealed by the analysis of RAPD. Phan Thi Phuong Nhi¹・Tatsuya Yamamoto¹・Yukari Akashi¹・Hidetaka Nishida¹・Kenji Kato¹・Tran Thi Minh Hang² (1. Okayama Univ., 2. Hanoi Univ. of Agr.) ㉔ アジア地域のコムギ在来品種に見出された新規な種子硬質遺伝子型の特徴とその分布. 池田達哉¹・高田兼則¹・叢花²・鈴木孝子³ (1. 近中四農研, 2. 新疆農業科学院, 3. 北海道立中央農試) ㉕ アワ (*Setaria italica* (L.) P. Beauv) *Waxy* 遺伝子の塩基配列多型. 八軒雄大・長谷川貴大・久保浩昭・一谷勝之・河瀬眞琴・福永健二 (県立広島大生命環境) ㉖ ハトムギ・ジュズダマ (*Coix lacryma-jobi* L.) の *Waxy* 遺伝子の構造変異. 八軒雄大・一谷勝之・福永健二 (県立広島大生命環境) ㉗ 考古学・民族学・遺伝学から紐解くムギ類のドメスティケーションと育種応用の可能性. 丹野研一 (山口大農) ㉘ コムギの子実硬度に関係する要因について. 高田兼則¹・池田達哉¹・谷中美貴子¹・石川直幸¹・松中仁² (1. 近中四農研, 2. 作物研) ㉙ Notes to *Camellia grandibracteata*, with an introduction to the taxonomy of cultivated tea plants in China. Shi-Xiong Yang (Kunming Institute of Botany)

加藤鎌司 (岡山大学大学院自然科学研究科)

日本育種学会会員異動 (2009.7.21 ~ 2009.10.20)

- ◇ 普通会员入会：岩間和人，山下陽子（北海道），高田美信（宮城），櫻井健二（秋田），有泉亨，本間貴司（茨城），佐久間壘（栃木），安彦友美，吉瀬（新井）祐子（東京），PANAYOTOVA GALINA（兵庫）
- ◇ 学生会員入会：庭田靖子，宮舘秀典（秋田），泉澤葵，村上久遠，渡辺さゆり（山形），藤原一優（東京），小島史代，佐藤真吾（新潟），永井啓祐（愛知），吉竹良洋（京都）
- ◇ 外国会員入会：SOLTANI FOROUZANDEH（イラン），MOSTAFA KAMAL ABU HENA（大韓民国）

住所変更等

- ◇ 普通会员：青山聡，大西一光，清水博之，松平洋明（北海道），田村和彦（岩手），門脇光一，中川原捷洋（茨城），竹内一成（埼玉），渡邊学（千葉），後藤晋（東京），荒井治喜（新潟），服部洋子（愛知），片山寿人（滋賀），小田俊介，松中仁（福岡），外山潤（宮崎），下地格（沖縄）
- ◇ 学生会員：増田寛志（石川）
- ◇ 外国会員：叢花（中華人民共和国）

逝去

BORLAUG NORMAN E. (メキシコ)

慎んでご冥福をお祈りいたします。